
からっぽのせい

つちのこ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

からっぽのせい

【コード】

N9990P

【作者名】

つちのり

【あらすじ】

風邪をひいたとりとめもない思考が生みだした短・短・短編です。

から元気の中身はからっぽです。

なにもかもあきらめて眠りにつこうと布団に入ってみたけれど、自分の咳がうるさくて寝れないじゃないか。

こうなったら、心底あきらめて、レジユメの続きを書こうかと思っただけど、寝るために飲んだ安物ワインのせいか、それとも本当に風邪でしんどいからなのか、ぐるぐる意味のない思考ばかりで、気づいたらもう2時間も経ってるじゃないか。

こんな時は、しばしば虫のことを考える。

「一年も生きれない虫の時間で2時間を無駄にする。」
そうするとなんだか気持ちだけ焦ってくる。

そういえば高校生の時ぐらいに、「ネズミの時間、ゾウの時間」という本を読んだ

気がする。

(ベストセラーになっていたので、もしかしたら読んだ人の話を聞いて、読んだ気になっていたりのかもしれないんだけど。)

哺乳類たちが一生かけて打ち鳴らす心拍数は、だいたい一緒ぐらいなんだと。

だから、一分間にたくさん心臓を動かしているネズミは早くに死んじゃって、生きていのか生きていないのかもわからないほど、ぼんやりと鳴っている心臓をもつゾウガメは、それだけ長く生きるんだ。

(あれゾウはどこにいったんだ?)

しかし、虫には心臓なんてないんだから、虫の一生の時間は誰が決めているんだろう?

そんなことを考えているうちにも、あたしのからっぽのなかで、ネ

ズミたちは死んでいくし、心臓もない虫は誰が決めたのかわからない時間を飛び回っている。
ぶぶんぶふんと。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9990p/>

からっぽのせい

2011年1月13日01時50分発行